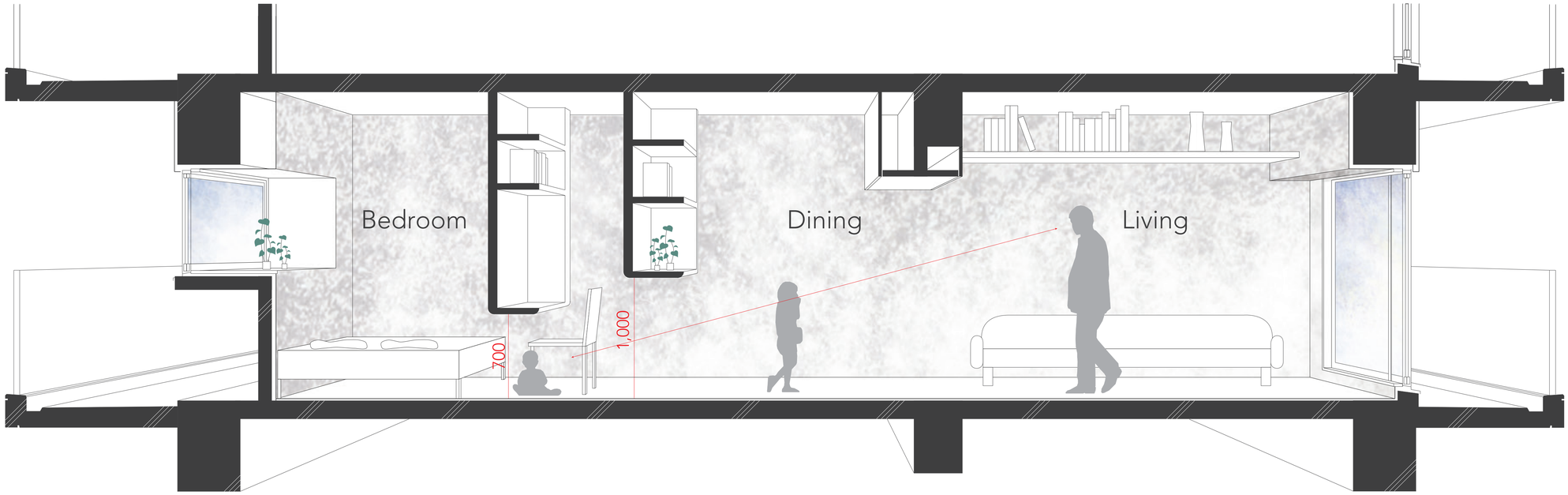


時間（とき）のミルフィーユ

A-A Section Perspective　S=1:20

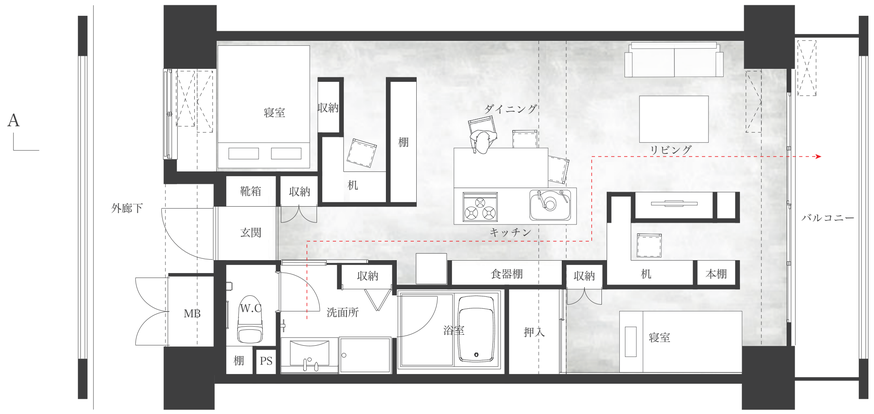
住宅には様々な時間のレイヤーがある。大人とこどもでは視野の広さも違うし、視線も違う。空間に対する認識も違う。これらは、年齢を重ねていくとともに少しずつ変化していく。時間を重ねていくごとに変化していくこどもと空間。

■ 家事動線を中心とした構成

共働きの夫婦ということで、家事動線を中心に各室を構成する。
洗面所からバルコニーまでの動線の途中にキッチンを配置し、シンプルに、なるべく小さくまとめることで、時間や空間を効率的に使うことができる。
また、こどもが幼児のときは、間仕切り壁が持ち上げられていることで、両親はどこにいてもこどもの様子や気配を視覚で把握することができるとともに、光や風を感じることができる。

Child Level Plan ｜ G.L+500　S=1:50

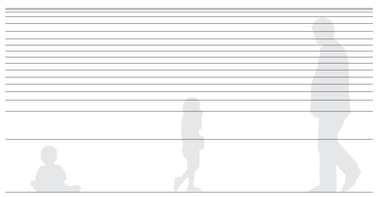
幼児の高さでは壁がなく、機能もなにもない、自由に動き回れる広々としたピュアな一室空間となる



Adult Level Plan ｜ G.L+1,500　S=1:50

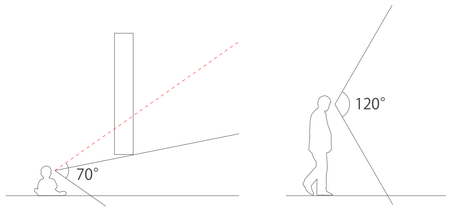
大人になるにつれて空間は次第に区切られ、機能に分けられるとともに、空間の意味を認識していく

■ 大人の空間とこどもの空間



左の図は、年齢ごとの平均身長を表している。幼児期の身長の変化は大きく、さらにハイハイから立ち上がるときには見える世界も大きく変わる。
また、大人は空間の意味を理解してその場所に適した振る舞いをする。それに対して、こどもは空間の意味を理解していないのでどのような場所でも自由に振る舞う。成長するにつれて変化する空間認識に対して、成長とともに変化する空間を考える。

■ パノラマの世界



水辺は都市において水平的な広がりをもっている。そのように、幼児の視線からでは、持ち上げられた収納壁によって視界が上から圧縮され、空間に水平的な広がりを生み出している。このように、幼児のときには、パノラマの世界が広がるようになり、物理的な広さ以上の空間的広がりを感じられるようになっている。